

不知火海・球磨川流域圏学会

入会案内書

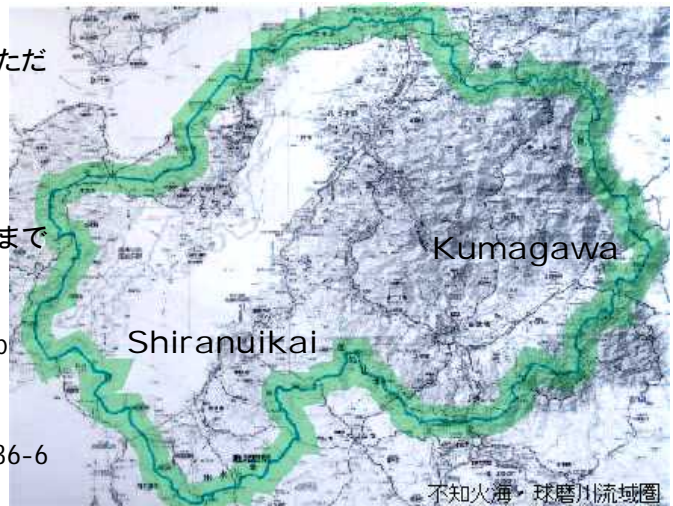
2005年10月29日、不知火海・球磨川流域圏の望ましい方向性を目指して、流域内外の研究者と地域住民が連携して、学融合的な研究および実践的取り組みを行うため「不知火海・球磨川流域圏学会」を設立いたしました。

今後、流域圏をキーワードに研究発表・交流会の開催、情報の共有などに向けた活動に取り組んでいきたいと考えています。入会を希望される方は以下に連絡先をご記入いただき、FAXもしくはメールにてご提出ください。

不知火海・球磨川流域圏学会
会長 大和田 紘一

申込み要領

- ★参加資格 この学会の趣旨（裏面参照）に賛同いただける方で、会費年額を納入するもの
- ★会費 個人会員 1年間 3000円
団体会員 1年間 10000円
- ★申込み方法 申込書に必要事項をご記入の上 FAX、メールもしくは郵送にて、下記までお申し込み下さい。
- ★申込み先 FAX 0965-32-7759
E-mail: tsuru-shoko@dance.ocn.ne.jp



不知火海・球磨川流域圏学会事務局

〒861-4225 熊本県下益城郡城南町東阿高 1136-6
佐藤伸二方
電話/FAX：0964-26-2003

.....《 入会申込書 》.....

ご氏名		ご所属	
ご住所	〒		
電話番号		FAX 番号	
E-mail アドレス			

「不知火海・球磨川流域圏学会」の設立趣旨

地域の文化や産業は、地域の自然環境を基礎として、地域固有の発展を遂げてきたにもかかわらず、森、川、海の密接なつながりが、広く認知されるようになってきたのは、つい最近のことのようです。熊本県の南部を流れる球磨川は九州脊梁山地を源とし、川辺川を始めとする多くの支流を集め、不知火海へと注いでいますが、この流域圏においても、水を仲立ちとして豊かな自然環境が形成され、それを基礎とした生活、文化が育まれてきました。

かつて、球磨川は日本でも有数の清流と言われていました。しかし、ダムや堰などの建設による水循環の分断や、経済活動によって流域環境は悪化し、観光や漁業を支えた自然環境は様変わりしています。また、林業の衰退は森林の荒廃を招くなど、流域経済の基盤であった森・川・海の自然資源は疲弊の一途を辿っています。こうした負の流れを正の方向に早急に転換していくために、今地域住民及び産・官・学の一体的な取り組みが求められています。

不知火海は生産性の高い閉鎖性水域であり、そこに流れ込む一級河川は球磨川のみという、森・川・海につながりに関わる研究に適するとともに、その取り組みの成果を得やすい水域という特徴を持っています。沿岸の水俣市は、水俣病という負の遺産を糧に環境都市として再生を果たしつつあり、また八代市の球磨川河口干潟はシギ・チドリネットワークに国際登録されるなど、環境面からも注目されつつあります。一方、五木、人吉、球磨、八代と流域経済圏は上流から河口まで、温泉や川下りなど様々な自然という社会資源をもつ地域としての魅力も兼ね備えています。

また、この流域圏が抱える課題は、全国に共通するものであり、ここでの取り組みの成果は全国の先駆的事例となるものと思います。多くの分野の様々な立場の方が連携を取り、全国の流域が抱える問題の解決の糸口を、この流域圏で探るために、2005年10月29日「不知火海・球磨川流域圏学会」を設立しました。

「不知火海・球磨川流域圏学会」の目的

不知火海・球磨川流域圏の望ましい方向性を目指して、学融合的な研究および実践的取り組みを、研究者と地域住民が連携しつつ行うことを重視する。

- 1) 森・川・海をつなぐ流域圏として捉え、さまざまな分野での研究や情報を共有することにより、新たな視点で研究や実践をめざし、その成果を地域社会へ還元する。
- 2) 自然環境そのものを対象とするだけでなく、第一次産業、地域社会などとの関連を重視した人文・社会学的研究や取り組みを行う。
- 3) 研究者のみならず、市民との交流を促進し、子供たちへの流域文化の継承をも視野に入れ、横断的ネットワークづくりを進める。

「不知火海・球磨川流域圏学会」は会の趣旨に賛同した98名+5団体の発起人によって、発足されました。流域を様々な視点で捉えようという趣旨のもと、全国の研究者だけでなく、流域の農業者、漁協、地域おこしグループ会員、教職員、主婦など多様な人が参加しています。研究者の専門分野も、社会学、法学、森林学、経済学、生態学、河川工学、農学など多岐に亘っています。